

人権保育専門講座 2



『いま、どんなきもち？』から始まる保育

大阪多様性教育ネットワーク 沖本和子さん



今年度も「専門性が人権の基礎を築く～命と心を支える専門家を目指し～」をテーマに、人権保育専門講座を開催しています。



人権保育専門講座2は、『いま、どんなきもち？』から始まる保育」と題して、大阪多様性教育ネットワークの沖本和子さんに、一人ひとりの「もちあじ」を安心して発揮できる集団をめざす人権保育のあり方についてご講演いただきました。

四日市、志摩、尾鷲の3会場で、約80人の方に参加をいただきました。お話の中で、「ほとんどの人が安心できること」と「だれもが安心できる」ということが違うと指摘いただきました。わたしたちが人権保育・人権教育でめざす空間は、「すべての人が安心して過ごせる場」であることをあらためて見直す機会となりました。

(沖本先生のレジメより抜粋)

1. コミュニケーションとつながり

わたしたちは、たくさんの人とさまざまな場面・さまざまな関係でつながって生きています。毎日の生活の中での直接的なつながりもあれば、ものを通しての間接的なつながりもあるでしょう。生まれてから今までの時間の中での人とのつながりをあらためて考えてみると、その数の多さに驚きます。個々さまざまなつながりを一緒にたにして、「つながり度」ということばで表すのは適切でないかもしれませんが、毎日いっしょに暮らしている家族やクラスの友だちとの「つながり度」はとても大きいといえます。いっしょに生活をしている。それだけで、とても大きなつながりです。「つながり度」が大きいからこそ、そこでのコミュニケーションがうまくいかないと、ねじれも大きくなり、心の痛みも大きくなってしまいます。一人ひとりのもちあじを尊重しながらのコミュニケーションの中で、“人とかがわろうとする思い”を引き出し、子どもどうしをつなげることがわたしたちおとなの大きな仕事なのではないでしょうか。

2. 自分の気持ちに気づくことから

コミュニケーションとは、たがいの気持ち、意思の伝達です。自分の気持ちが相手にうまく伝わらないとコミュニケーションはできません。だから、まず自分の気持ちを知ることが大切なのです。自分の気持ちときちんと向かい合い、その時その時の気持ちを感じ、いろんな感情を持つ自分を大切にすることができると、相手にもきちんとその思いを伝えられるようになります。そして、人の気持ちを感じる心・大切にされる心も育ってきます。相手とつながろう、気持ちをつなごうとする積極的な思いがたがいの中に生まれてこそ、心地よいコミュニケーションができるのです。だから、自分の気持ちを見つめることをとても大事に活動をすすめていきたいのです。

3. 子どもの感情とおとな

自分を知ること。ありのままの自分を好きになること。気持ちを素直に表現すること。人の思いをしっかりと聴くこと。こういった「自己肯定」「他者理解」の気持ちを育てようとするおとなの存在が、子どもたちのつながりを、より大きくより深いものにしていくのだと思います。

生まれたときから、「大好きだよ」「大切だよ」をいっぱい浴びて育ってきた子どもの多くは、そのつながりのなかで、自分の思いを素直に表現し、人の思いも気持ちよく受け入れているように感じます。自分の思いを受け入れてもらうことの少なかった子どもの多くは、自分の気持ちを表すのが苦手だし、人の気持ちを思いやるのも苦手です。子どもの育ってきた環境は、それぞれ違います。子どもの数だけ感情表現の形があるといっていいでしょう。そのどれもが、今まで過ごしてきた環境の中で獲得してきた、その子の大切な表現方法なのです。そして、その感情表現は子どもをとりまくおとなの影響をかなり受けてきたものなのだとすることを忘れてはいけません。子どもの感情やその表現が、まるで自分に全く関係のないところで形成されてきたかのようにふるまうおとなも少なくないのではないのでしょうか。おとなの対応が子どもを苦しめることなど、あってはいけないのです。

4. おとなからの発信

まずはおとなが、一人ひとりの「もちあじ」をよく知り大切にしましょう。子どもたちに信頼される存在になるために、まず、わたしたちおとなが子どもを信じましょう。

子どもたちがつながっていくためには、安心できるおとなの存在が必要です。思いをきちんと受け止めてくれるおとなの存在が必要なのです。わたしたちおとなは、子どもたちに「あなたは、大切な存在だよ」「あなたのことが大好きだよ」「あなたのその思い、言っているんだよ」というメッセージを常に発信し続けましょう。

5. クラス集団はもちあじのたからばこ

自分を見つめることって、そう簡単にできることではありません。これまでのさまざまな人間関係の中で、自分自身の存在を否定された経験を持つ子どもたちにとって、自分と向き合うだけでも高いハードルを越えなければならないことでしょう。けれど、信じてことができたり、まだとことん信じられるわけではないけれど「信じてみようかな」と思えたりする仲間に出会えたことで、ハードルに向かってジャンプするエネルギーが生まれ、ものすごく高いと感じていたハードルもいつか越えることができるようになるのです。たとえ、ハードルを越えられなくても、そこで得た経験が明日へのチカラとなるのです。

自分のことを大切に考えてくれていると感じる仲間の中で、自己開示をしながら、フィードバックしながら、自分自身をしっかりと見つめることができるようになっていく。そして、一人では知ることも感じることもできなかった多様なものの見方や考え方、行動力を築き上げていくのです。クラス集団は、そのためにあるのだと思います。教室は、多様なもちあじの「おもちゃばこ」であり「たからばこ」なのです。

6. 安心な場づくり

「授業づくり」の基本理念は、「誰もが大切な存在である」ということです。みんなが自分の思いを安心して表現できる教室をつくっていくことを目標に、学校でのあらゆる活動にこの基本理念を置きます。「誰もが大切な存在である」というのはあたりまえのことで、学校教育の場ではよく掲げられる文言です。この「誰も」というのは、文字通り「だれも」で、学校に関係するすべての人たちのことをさしています。子どもたちはもちろんのこと、おとなたちも大切な存在として場の中に位置づいていなければなりません。

おとなが子どもたちにとって安心な存在であることを示すことからスタートします。そのスタート時に示す具体的なものが、「安心のための3つの約束—安心の基本ルール」です。

「誰もが大切な存在である」というメッセージがあらわれるこのルールをおとながきちんと守ることで、子どもたちにもきちんと届きます。

「安心のための3つの約束—安心の基本ルール」

うなずこう

ひみつは守ろう

パス、OK！



うなずこう

話をしているとき、相手がうなずきながら聴いてくれていると、ホッとするものです。「あ、聴いてくれている！」と思うと、少し緊張もほぐれて、自分の思いを落ち着いて話せます。自信を持って話せます。話す人が、思いをできるだけきちんと伝えられるように、聴く人は、話している人のほうに、気持ちを集中させてからだごとでうなずきながら聴きましょう。「あなたぜんぶ」で聴きましょう。聴いている途中で、自分とは違う意見だと感じても、「あなたはそう思うんだね。」とうなずきながら最後まできちんと聴きましょう。

「聴く」というのは、文字が示すように、耳と目と心を合わせて気持ちを感じあうこと。「あなたぜんぶ」でお互いの気持ちを感じあうことなのです。

ひみつは守ろう

ここが安心できる場所だと感じると、今まで心の中にギュッと閉じ込めてきたことや、どうしても言葉に出していえなかった気持ちが、すっと話せたりします。

聴いている人を信頼したからこそ話したその人の気持ちは、ものすごく大切に扱きましょう。大切に扱うというのは、むやみやたらにその人の気持ちを外に持ち出さないということです。この安心の場所で聴いた個人的な話は、この安心の場所だけの話。もし、他の誰かに話したほうが解決に結びつくとか、他の誰かの力になる話だとか、あなたがその話を外に持ち出したい理由があるときは、話をした本人に、持ち出していいかどうかをきちんと尋ねましょう。

パス、OK！

だれだって、どうしてもできないことや、どうしてもできないときだってあるものです。そんなときは、周りのみんなを信じて、「パス」しても大丈夫です。最後まであきらめないことは大切だけれど、がんばりすぎは禁物。休んでいいのです。適度な休息は心身をリフレッシュしてくれます。投げ出すのではなく、バトンを誰かに託しておけば、チャンスはまたやってくるものです。バトンは、いつでも、パス、OK！

ルールを守っていない人がいたら、「きっと何かわけがあるはず」と、その人の気持ちに寄り添ってみましょう。守らないわけ、守れないわけがあるのかもしれません。ルールは、だれかを不安にするためにあるのではなく、みんなの安心を守るためにあるのです。

この3つの約束「安心ルール」のすばらしいところは、約束を守ることで自分自身が安心になることをすぐに実感できることです。この3つの約束には、自分の気持ちを安心して相手に伝えようとするときの「安心」要素がそのまま入っています。約束を守りあえば、「みんなは自分の話をしっかりと聴いてくれる」「ここで話したことは、誤った情報やうわさになったりしない。」「疲れたときは休んでいい。自分のペースですすめばいい。」ということが保障されるので、自分が大切にされていることをすぐに実感できるのです。この約束に貫かれているのは、「お互いの存在を尊重する」ということ。今

まで自分の気持ちに向き合うことをしなかった人も、人の気持ちを考えることをしなかった人も、この約束を守ろうとすることで自分自身の気持ちと向かい合い、お互いの気持ちを感じ、思い合ったり助け合ったりすることを体感し、かわり合うことの心地よさを実感するのです。

教室がおとなにとって安心できない状況になっているという話を聞くことがあります。不安を持って子どもたちの前に立つせんせいを見て、子どもたちがうれしいはずがありません。せんせいが安心できない教室では、子どもたちの安心を築くことはできません。

まずは、おとながこの3つの約束をきちんと守ることで、子どもたちはせんせいとの人間関係をこちよいと感ずるので。そして、「誰もが大切な存在である」というせんせいのメッセージが生きたものになるでしょう。



(参加者のアンケートより)

- 「いま、どんなきもち？」というポスターやカードは見たことがあったのですが、こんなたくさんのやり方があって、すごく参考になりました。先生の話す言葉一つ一つがとても温かく、子どもたちのことをすごく考えているのが伝わり、私も子どもたちに今日聞いたことを伝えられるように頑張りたいと思いました。大・大・大満足！！で、すごく楽しみながら考えさせられる研修でした。ありがとうございました！！
- 講演を聴くだけでなく、グループに分かれてのワークショップがあったので、最後まで楽しんで学ぶことができました。“いま、どんなきもち”目に見えないものを感じる、伝えることの難しさを改めて感じた。大人の一方的な考えで、子どもたちの気持ちを曲げてしまっているのでは？とハッとしました。
- 沖本先生がとても穏やかに話され、普段の自分の子どもへの話し方を振り返ってみて、色々反省することもありました。大人の型にはまった見方を、子どもに押しつけてしまう…ハッとさせられました。折り紙が裏に折ってた子に「反対やよ」と言ったこともあったからです。自分の気持ちを出している子は、この先生だから、ぐずったり、泣いたりするところもあると聞いて、少し安心しました。
- 子どもの気持ちは、大人の自分の価値観で左右されるという話を聞いて、自分自身も子どもと接する時「何でいつもこうなん？」など、決めつけて見てしまっている自分自身に気づかされました。自分自身が、心の余裕がなくなると、子どもも自分の思いを話せない環境を作り出してしまうので、まず自分の言葉や思いを見つめ直していきたいと思いました。
- 参加型の研修でとても分かりやすかったです。初めての方とグループになり、少し緊張感がありましたが、次第にほぐれていくのが実感でき、子どもたちも頷いてもらったりすることで安心して、友だちに自分を出せるのだと感ずることができました。また、大人の価値観のお話では、ハッとさせられることもあり、職場の研修でも伝えていきたいと思ひます。

- 子どもの思いを大切に…ドキッとしました。自分中心で保育を進めていないか振り返った時、「今、～だからあれして…、他のクラスがここまでしてるから…」と、色んな環境に左右されて、子どもの気持ちをくみ取れていなかったんだあと反省しました。子どもの「イヤ」は意思表示。泣くことも大切なサイン。それを見落として、この先保育していくのは嫌だ。今回の研修を機に、自分の保育を見つめ直します。
- 就学前の研修でしたが、小学校にも伝えたい内容でした。ありがとうございました。
- 5歳児を受け持っているときに、カードを自分なりに使ってみた時、子どもたちからいろんな言葉を聞くことができました。子どもたちの中でいつも強気な態度を見せていた子が「どうしよう」のカードをみせて「こんな気持ちになるのはどんな時？」とたずねると「ごめんね、が言えなかった時」と話すのを聞いて、思いに寄り添っているつもりでもわかっていなかった自分を感じました。
- 安心の基本ルール うなずこう→お～、へえ～、そうなんや、と一度子どもら、職員の気持ちを聞いてあげることの大事さがよく分かりました。どうしても同じようにしてしまうことが多かったので、一人ひとりの気持ち（もちあじ）の大切さをこれから知り、保育していきたいと思います。ありがとうございました。
- 自分の心の思いを改めて知ったり、相手の気持ちを大事に思って、その出し方など色々と勉強になりました。多動の子どもの思いも受けとめながら、クラスの子どものその子の見方など違ってくる話も聞けて良かったです。こちらの見る目、感じ方を変えることで、同じことでも良い方向につながっていくことを学ばせていただきました。まさに「こちらが変われば相手も変わる」です。お互いしんどくならない考え方、見方を身につけていきたいものです。また、お話を聞きたいと思いました。ありがとうございました。